

平鹿総合病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 12月 策定

【平鹿総合病院の基本情報】

医療機関名：平鹿総合病院

開設主体：秋田県厚生農業協同組合連合会

所在地：秋田県横手市前郷字八ツ口3番1

許可病床数：586床

（病床の種別）一般病床580床 結核病床6床

稼働病床数：533床

（病床の種別）一般病床527床 結核病床6床

（病床機能別）ハイケアユニット病床10床

一般病床7対1基準看護404床

結核病床7対1基準看護6床

地域包括ケア病床113床

診療科目：内科、精神科、神経内科、消化器・糖尿病内科、呼吸器内科、循環器内科、血液内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、消化器外科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科、形成外科、病理診断科

職員数：866名（非常勤医師除く）※平成29年3月末時点

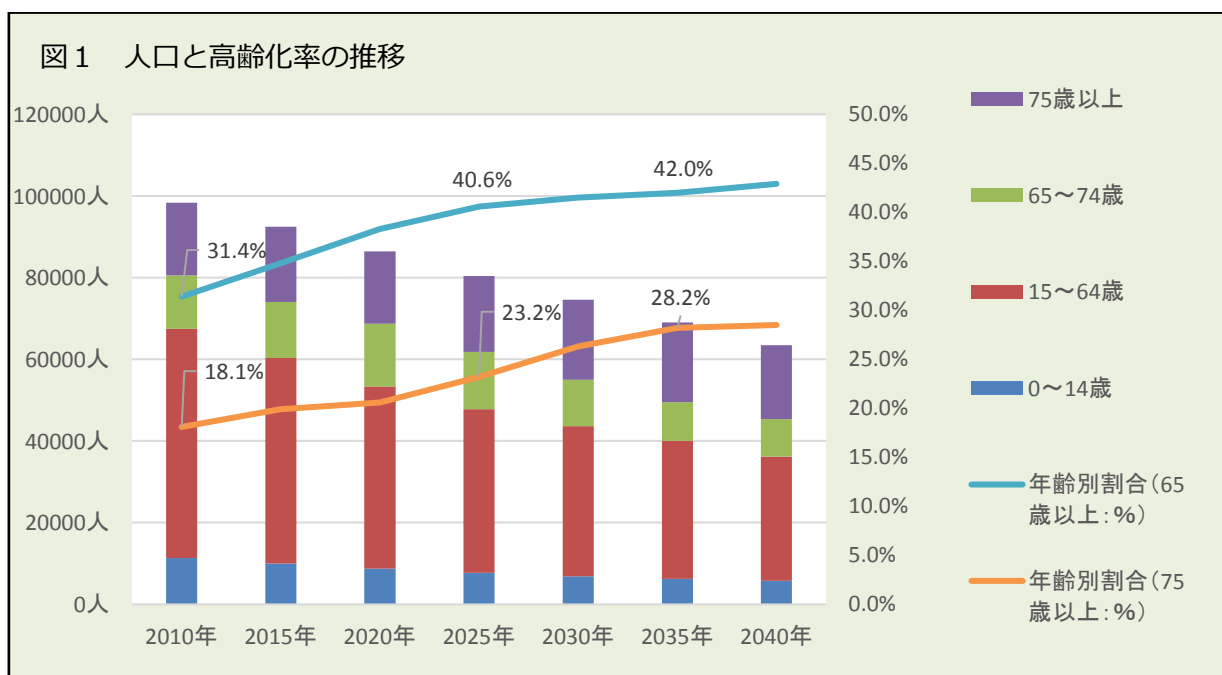
- ・ 医師、歯科医師：67名
- ・ 看護職員：457名
- ・ 専門職員：112名
- ・ 事務職員：116名
- ・ その他職員：114名

【１．現状と課題】

① 構想区域の現状

（１）人口と高齢化率の推移

- 平成27年国勢調査による横手市の総人口は、92,197人であり、平成17年国勢調査時から11,455人（11.1%）減少しています。内訳としては、年少人口が1.7%、生産年齢人口が4.1%減少したのに対し、老年人口が5.8%増加しており、人口減少に加え、少子高齢化が進行している状況にあります。
- 「都道府県の将来推計人口」（平成25年3月、国立社会保障・人口問題研究所）によると、横手地域の人口は、平成37年（2025年）には80,422人、平成47年（2035年）には69,004人まで減少するとされており、平成22年（2010年）からの減少率は約30%となります。
- 65歳以上の割合は平成37年（2025年）には40.6%、平成47年（2035年）には42.0%になると予想されています。（図１）



※「都道府県の将来推計人口」（平成25年3月、国立社会保障・人口問題研究所）

（２）医療需要の推移及び提供体制

- 横手地域の医療需要については、減少傾向となるものの、大きな減少とはならない推計とされています。しかし、内容としては入院医療における急性期病床が過剰となり、回復期、慢性期が不足となる予測がされています。（表１）
- 現在、横手地域には当院の他に市立横手病院と市立大森病院の３つの公的病院に加え、精神病床を有する横手興生病院があり、４施設で高度急性期、急性期、回復期、慢性期から在宅支援までのすべての機能に対応しています。
- 高度急性期は当院が主となり担当し、急性期及び回復期は公的３病院で分担を行い、療養病床機能は市立大森病院が唯一備えています。
- 疾患別の対応をみると、ほぼ全ての疾患において地域内完結が出来ており、隣接する地域からの流入が多いことがわかります。（表２）

表1 2025年の「病床数の必要量」

構想区域	医療機能	平成27年度 病床機能報告 許可病床数 (A)	平成37年 (2025年) 病床数の必要量 推計値 (B)	差 引 (B - A)
横 手	高度急性期	10	97	87
	急 性 期	669	360	▲309
	回 復 期	160	192	32
	慢 性 期	100	216	116
	計	939	865	▲74

※秋田県地域医療構想

表2 平成26年度MD C別患者数と受入患者数推計値

MD C		患者数	推計値	差	流入(%)
01	神経系	554	575.2	21	3.8%
02	眼科系	403	347.8	▲55	▲13.7%
03	耳鼻咽喉科系	372	496.6	125	33.5%
04	呼吸器系	1236	1739.5	503	40.7%
05	循環器系	640	1166.3	526	82.2%
06	消化器系、肝臓 胆道・膵臓	2178	3276.7	1099	50.4%
07	筋骨格系	358	388.9	31	8.6%
08	皮膚・皮下組織	130	142.3	12	9.4%
09	乳房	88	135.8	48	54.3%
10	内分泌・代謝・栄養	269	327.6	59	21.8%
11	腎・尿路系及び 男性生殖器系	665	813.8	149	22.4%
12	女性生殖器系及び産褥器 ・異常妊娠分娩	585	866.3	281	48.1%
13	血液・造血器・免疫臓器	157	187.2	30	19.2%
14	新生児、先天性奇形	170	287.7	118	69.2%
15	小児	355	439.1	84	23.7%
16	外傷・熱傷・中毒	556	635.3	79	14.3%
17	精神	—	—	—	—
18	その他	137	188.8	52	37.8%

※ 地域人口：91,663人

患者数：各医療圏に住所のある患者数

推計値：各医療圏の医療機関が受け入れていると推定される患者数

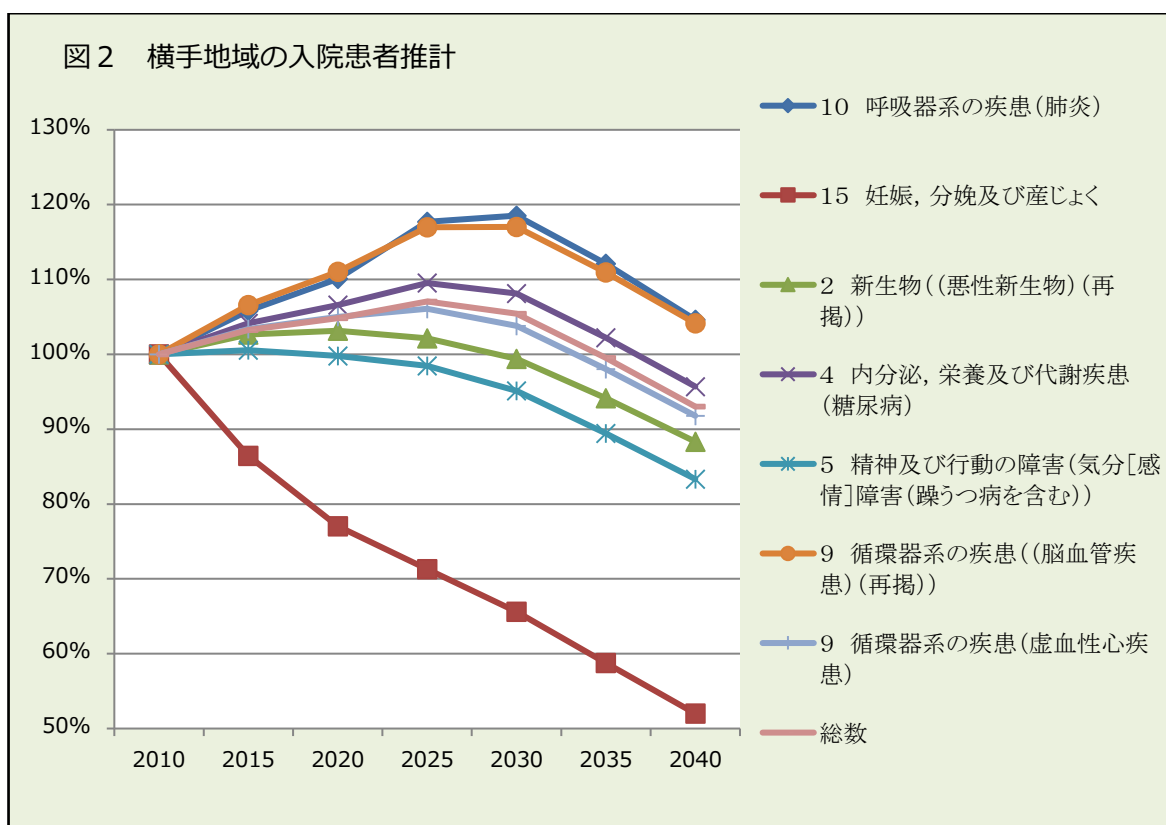
流入(%) = 差 / 患者数 × 100により求めた。値が正であれば流入有。負であれば
流出有と推測される。

出典：秋田大学地域医療政策学講座

② 構想区域の課題

(1) 人口減少と高齢化率の進行

- 人口減少が進行し、年齢層も高齢者の割合が多くなることから、医療需要が減少する中で、疾患別の需要割合も変化していくことが考えられます。(図2)
- 人口減少の中で、医師、看護師をはじめとした将来の医療の担い手不足が深刻化することが予想されます。



※地域別人口変化分析ツール：A J A P A (松村圭司、松田晋哉、伏見清秀)

(2) 医療需要の変化

- 医療需要の変化が予想されていることに対し現状では急性期病床が過剰の状態であり、回復期、慢性期病床への転換について検討が必要となっています。
- 慢性期病床や在宅医療等については、見直しや扱い方の変更などにより需要が増加する可能性があります。(表3)

表3 横手地域の慢性期及び在宅医療等の医療需要

医療機能	平成25年度の医療需要 (人/日)	平成37年の医療需要 (人/日)
慢性期	204	199
在宅医療等	1, 153	1, 141
(再掲)うち訪問診療分	555	551

※秋田県地域医療構想

③ 当院の現状

(1) 理念、基本方針等

○ 平鹿総合病院の理念

より高度な臨床 より深い研究
より広い教育 より積極的な保健活動
の4つの柱を職員が共有し、地域の人々の生命と健康を守ります。

○ 平鹿総合病院の基本方針

1. 患者さんの権利や意思を尊重し、十分な診療情報の提供と相互理解に基づく医療を行います。
2. 患者さん中心の安全で、安心と信頼の得られる医療を行います。
3. 地域の中核病院としての役割を果たすため、診療機能の向上と救急医療の充実に努めます。
4. 研究と教育を重く認識し、人間性豊かな医療人の育成に努めます。
5. 積極的な保健活動を通して地域医療の向上に努めます。
6. 職員が一致協力して経営に参加し、仕事に誇りを持てる働きがいのある職場を創ります。

(2) 診療体制

- 当院の入院医療は一般病棟7対1基準看護を主体としていますが、平成26年10月より地域包括ケア病棟を稼働後、平成27年4月には病床の機能分化を更に進めるべく病床機能を再編し、ハイケアユニット病床10床、地域包括ケア病棟を113床に増床届出し、高度急性期機能を担う集中治療病棟、急性期機能を担う一般病棟、回復期機能を担う地域包括ケア病棟に分け、患者さん一人ひとりの病状に見合った病棟で入院医療を行っています。

また、平成29年より入院支援、退院支援部門に専従看護師を配置し、地域連携の促進と早期の退院支援に取り組んでいます。

- 職員数は医師や看護師などで減少傾向にあり、医師については、麻酔科常勤医師の不在が長期にわたるほか、呼吸器内科医師の減少による診療体制の縮小など厳しい状況が続いており、解消に向けて、招聘活動を行っております。同じく、看護職員も不足の状態が続いており、敷地内保育所の設置など、働き続けられる職場環境の整備を行っています。(表4、表5)

表4 医療職員数の推移

職員数(常勤換算)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
医師等(医療職Ⅰ)	84.7	77.4	82.9
技師等(医療職Ⅱ)	104.9	106.1	110.8
看護職員等(医療職Ⅲ)	452.6	446.6	440.1

※各年度末職員数(正職員+臨時職員)

表5 敷地内保育所利用者の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
延利用者数	497	2,894	6,635
実利用者数	50	180	372

※敷地内保育所は平成26年11月より稼働

(3) 診療実績

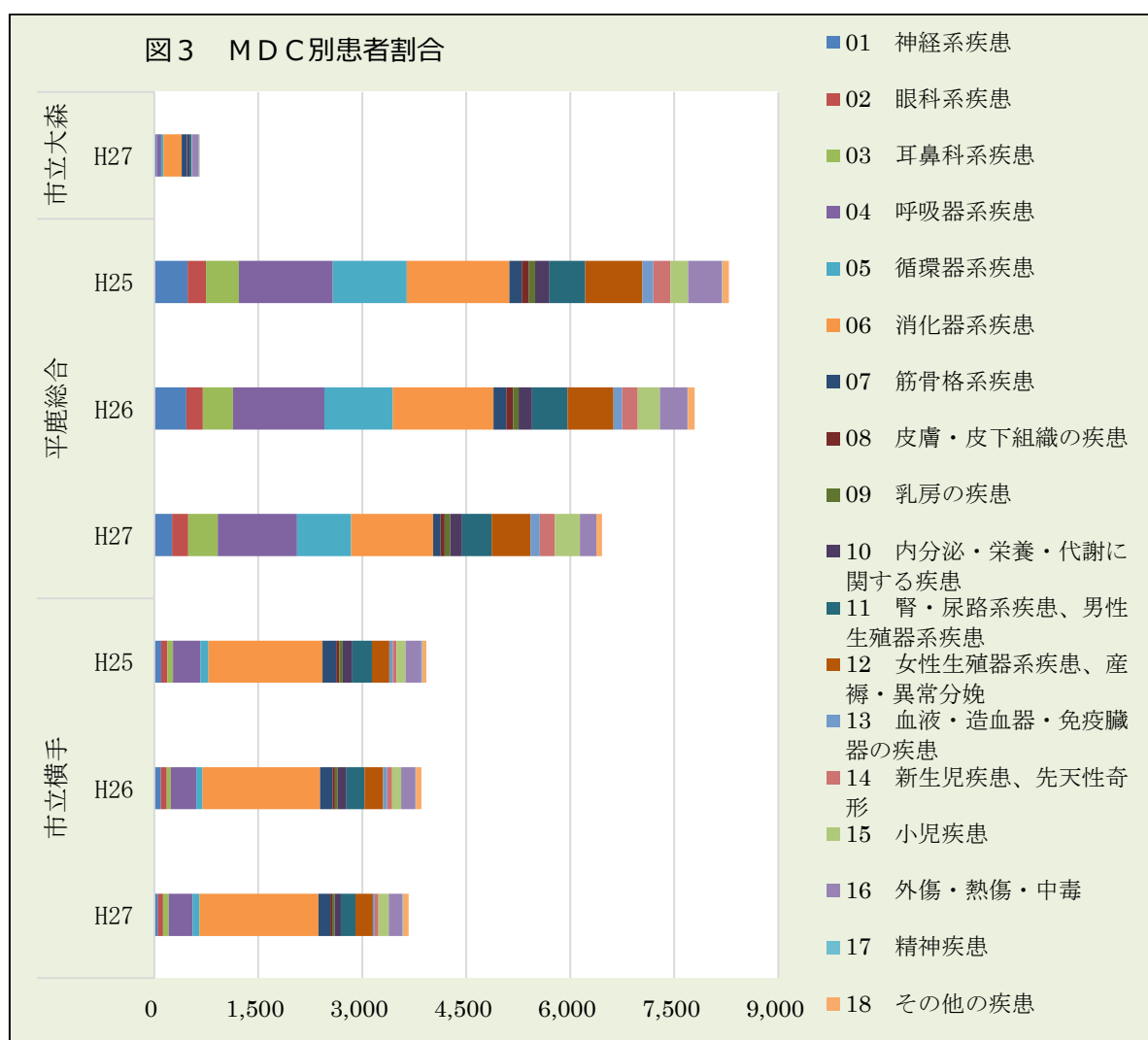
- 平成26年度より、国が進める機能分化や平均在院日数の短縮化、500床以上病院に対する基準の厳格化などに対応するため、院内における病床運用等について再編を開始しました。この影響で、当該年度は収支比率が100%を下回る結果となったものの、平成27年度にはハイケアユニットの設置及び地域包括ケア病棟の増設を行い、また、院内での新たな運用が定着したことによって、患者数の減少傾向により病床利用率が低下する中でも、平均単価の上昇による収支安定が図られています。一方で、医師数の減少により、診療体制を縮小せざるを得ない診療科もあることから、近隣の医療機関との連携を図るため、逆紹介を推進し、機能分化を図っています。(表6)

表6 診療実績、経営指標等

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業収支比率	98.4%	101.6%	101.0%
人件費率	55.7%	54.2%	54.7%
材料費率	25.8%	25.0%	25.4%
病床利用率(一般)	77.9%	83.6%	83.3%
平均在院日数(一般)	16.9日	15.3日	15.6日
平均入院患者数	454.4人	444.5人	440.5人
平均入院単価	47,849円	48,824円	48,691円
平均外来患者数	1,028.6人	1,000.7人	924.2人
平均外来単価	11,793円	12,547円	12,662円
紹介率	20.4%	26.8%	26.3%
逆紹介率	33.4%	34.6%	40.5%
患者満足度	92.9%	98.0%	98.1%

※紹介率、逆紹介率の計算は地域医療支援病院の定義による。

- 過去3年間のMD C別患者割合から比較すると、ほぼ全ての領域で当院が大きなシェアを占めています。特に循環器、呼吸器系疾患では基幹的役割を果たしており、地域の中核的医療を担っております。消化器内科においては、市立横手に次ぐ割合となっておりますが、診療のみならず、ドックなど予防部門において内視鏡検査など多数実施されており、疾病予防及び重篤化を防ぐ役割を果たしています。(図3)



※厚生労働省「診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」資料より

(4) 政策医療

- 横手地域では公的3病院が救急告示病院となっておりますが、「地域救命救急センター」「地域周産期母子医療センター」などの政策的医療機能については当院が中心的役割を果たしています(表7)。また、医師会との連携により、日曜日の救急外来診療の応援や、日曜夜間の小児救急外来を開設し、地域住民が安心して生活できる一助を担っています。(表8)

表7 主な機能の拠点病院(平成28年4月1日現在)

	救命救急センター等	周産期母子医療センター	救急告示病院	災害拠点病院	がん診療連携拠点病院	へき地医療拠点病院
平鹿総合病院	○(地域)	○(地域)	○	○	○	○
市立横手病院			○			
市立大森病院			○			

※秋田県医務薬事課調べ

表 8 日曜夜間小児救急患者

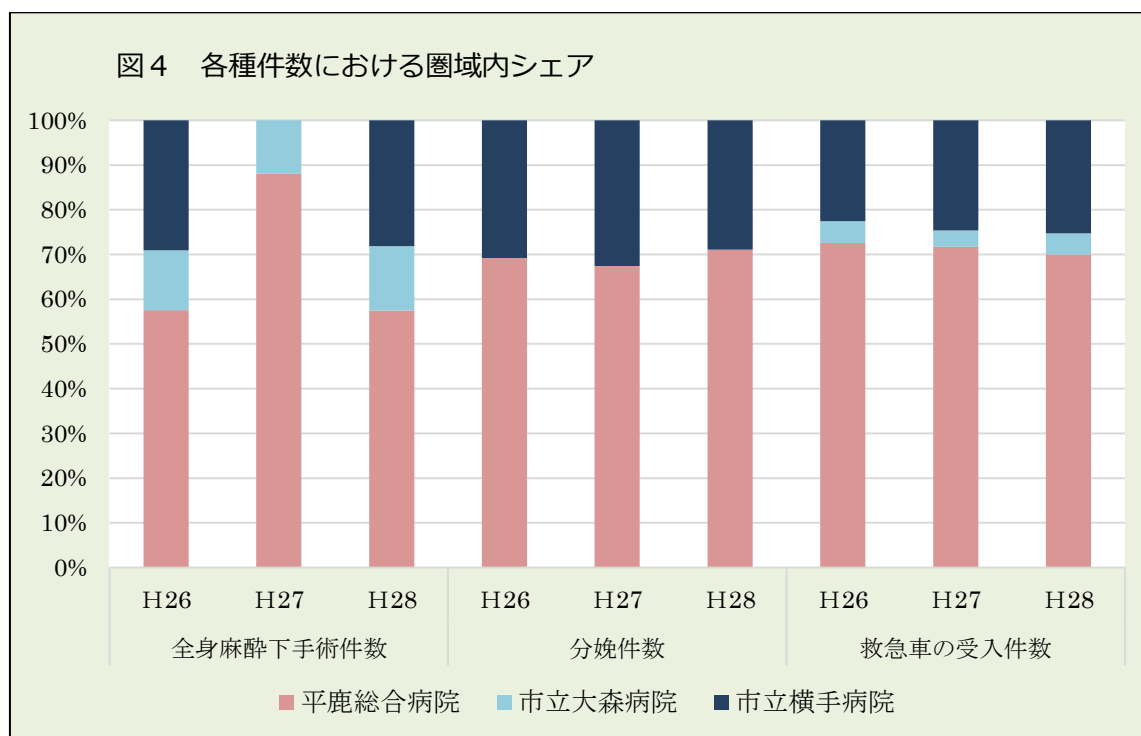
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
延患者数	622	581	581	683	633
内入院患者数	14	13	19	47	32
入院比率	2.3%	2.2%	3.3%	6.9%	5.1%

※日曜夜間小児救急：平成18年12月より横手市内の診療所医師と当院医師が当番制で、日曜日の夕方に当院救急外来にて小児救急として診療を行っています。

④ 当院の課題

(1) 病院機能の維持

- 人口減少に伴う医療需要の減少に加え、医師、看護師等医療職員の確保が厳しくなることが予想される中で、以下に例示した現在の診療体制や政策的医療を維持していくことが最大の課題と考えられます。また、その前提として安定した経営基盤の確立が必要であり、診療報酬改定などの制度変化に柔軟に対応していかなければなりません。
 - ・急性心筋梗塞やがんへの対応
 - ・産科、小児科の県南中核病院として機能維持
 - ・救急告示病院及び地域救命救急センターとしての役割 等（図4）



※「病床機能報告」より作成。H27の市立横手の全身麻酔下手術件数は「未確認」として報告されました。

(2) 医療機能の再検討

- 現状を踏まえた上で、当院が地域の中で担うべき役割を再検討するとともに、必要な対策を講じていく必要があります。

【2. 今後の方針】

① 今後担うべき役割

(1) 政策的医療を含めた病院機能の維持

- 図1、図2のとおり、今後の人口減少により、患者数も減少傾向となる予測がされていますが、その中にあっても、当院が地域の中核的医療を担う役割を果たしていくことに変わりはなく、医療機能の集約や地域連携の促進、隣接する地域からの紹介や救急搬送など需要増加も考えられることから、麻酔科など常勤医が不在となっている診療科の解消に向けた取り組みを行いつつ、表7に示されている多くの政策的医療の拠点病院として現在の医療提供体制を維持していきます。

(2) 高度急性期から回復期までを含めた医療機能の維持

- 当院は高度急性期の患者を受け入れるハイケアユニット病床を有し、夜間の緊急心臓カテーテル検査に対応可能など、救急医療に関して基幹的な役割を果たしているほか、心臓血管外科や乳腺外科、形成外科など、地域で唯一入院機能を持つ診療科が多くあります。がん診療では全部位に対応した診療が可能であり、開心術など高度医療にも対応していることから、図3に示されるように他の医療機関で代用できないこれらの機能を維持していく必要があります。

② 今後持つべき病床機能

- 当院は院内の病床機能再編を平成26年度より開始し、平成27年4月のハイケアユニットの設置、地域包括ケア病棟の増設を行ったことで一定の完結となり、現在は高度急性期から急性期、回復期へと患者一人ひとりの病状に見合った病床で診療を行っております。今後も急性期機能を中心とした病院の機能維持を図っていきますが、それぞれの病床数については、適正な規模となるよう検討していきます。
- 回復期機能については地域包括ケア病棟が2病棟稼働しておりますが、平成28年度の診療報酬改定により、病床数が500床以上の病院は地域包括ケア病棟数が1病棟のみに限定されたことから、今後増設する場合には、病院全体の病床規模も含めた検討が必要となっています。

③ その他見直すべき点

- 病院全体として、病床利用率は現在80%を超えていますが、今後の医療需要の推移を加味した上で最適な病床規模となるよう検討が必要となります。
- 入院基本料をはじめとする施設基準の厳格化が進む中で、医師、看護師などスタッフの確保が厳しくなっている現状があり、職員数を前提とした施設基準については、その機能維持に関して検討が必要となります。

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

- 急性期病床については、現行のハイケアユニット病床10床のほか、施設基準は取得していませんが、専門領域としてCCU、SCUが6床ずつ設置されており、高度急性期を担う病床として今後も機能維持を図ります。
- 必要な時に、適切な病棟で、適切な医療を受けることが出来る体制を今後も提供していきます。

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	10	→	10
急性期	410		410
回復期	113		113
慢性期	0		0
(合計)	533		533

② その他の数値目標について

- 地域の中核病院として、他医療機関との連携を促進しながら、安定した経営基盤を構築します。

	2016年度（実績）	2018年度	2025年度
病床利用率(一般)	83.3%	85.0%	85.0%
全身麻酔科手術件数	1,342	1,350	1,350
紹介率	26.3%	30.0%	32.0%
逆紹介率	40.5%	38.0%	40.0%
人件費比率	54.7%	60.0%以内	60.0%以内